

令和元年度 第2回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和元年10月15日(火) 午前10時から

場所 市役所1号館3階 第1会議室

出席委員 13名
欠席委員 1名
事務局 10名

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

まずは、台風19号で大きな被害が生じている、被害にあった皆様にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

本日の会議は本年度2回目の会議となる。8月の会議では皆様から積極的なご意見を賜り御礼申し上げます。

本日の会議は1回目の会議では時間の都合上、説明できなかった今年度の事業について詳細に説明できると考えている。それに対して意見をいただきたい。

来年度は中小企業振興基本計画の見直しを行うが、防府市の総合計画の見直しも行う予定であるため、次期総合計画も皆様の意見を踏まえて見直していきたいので忌憚のない御意見を賜りたい。

これから予算時期に入る。委員の御意見について来年度予算に反映できるものは反映し、長期的なものについては長期的に考えながら対応していきたい。

○ 会議成立の報告

14名の委員中13名の出席であり防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

2 令和元年度中小企業振興施策について

【事務局】

～ 令和元年度中小企業振興施策について概要説明 資料2 ～

令和元年度の事業の概要と進捗状況について、8つの目標があるため、一つの目標ごとに説明し、目標ごとに委員の皆様の御意見を承りたい。

○目標（１）経営の革新、創業及び承継について

【A委員】

6月3日に防府市中小企業サポートセンター（以下、「コネクト22」と表記。）を開設した。これまで、会議所へ相談のなかった事業者・業種・業態からの相談が出てきている。

相談を受けたものについて、長期的な指導が必要なものについては会議所が引き受けるという連携ができています。

10月8日時点で集計した結果、営業日数が89日、創業相談が54件、経営相談が208件、セミナーは会場の関係で小規模となるが11回開催して138名の受講者があった。

これまでのセミナーは大きい会場で開催してきたが、小さい会場でやるメリットとして、講師と受講者が一体になることができ、講演後も講師に対して受講者からいろいろな質問が出る、個別対応ができるという効果が出ている。

トータルで約400名近くの方が利用されており、1日当たり4.4事業者の相談を受けている。

9月1日にはホームページを開設している。

アクセス解析を行っており、96社（人）利用があり閲覧時間が約2分50秒、ある程度長い時間サイトを閲覧されており、助成金部分の閲覧が多い。今後もタイムリーな助成金を掲載することを目標としている。

また、すぐに情報提供したいものはフェイスブックを活用している。

現在の相談体制は3名体制であるが、そこに、よろず支援拠点、働き方改革支援センター、金融機関と色々な機関がここを使って相談対応しており、今後も相談拠点としてやっていきたい。

県内の状況を聞くと、相談機関を紹介した後の状況を把握しているところがないということであったが、コネクト22の場合には常に商工会議所やコネクト22のセンター長、あるいは関係機関と連携、情報交換しながら動いている。

今後も防府版の拠点として成長させていきたい。

【B委員】

5番の「中小企業振興資金融資事業」について、予算が4億600万円だが、4月から8月の実施状況において、3億1千万円計上となっている。年間でどのようなスピードで貸し付けているのか、予算に対してまだ約1億残っているが、この残額は、他の用途に使うために置いているということか。「がんばる中小企業応援資金」はこの枠組み、金融機関の貸付けとは違うのか。

【事務局】

「中小企業振興資金融資事業」は年度当初に1年間の融資、融資残高を見込んで、一括して金融機関へ預託する。したがって、ここに計上している3億いくらは今年度

分ということで商工会議所へ貸付けし、商工会議所から各金融機関へ預託が既に行われている状況である。

予算残の約1億については、金融情勢が急変した場合、例えばリーマンショック級の変動などが起きた場合などに追加で金融機関へ預託するということに備えて持っているもの。

昨年度はこの原資をもとに406件、29年度が392件の融資が行われている。

「がんばる中小企業応援資金」については、特に課題となっている空き店舗への出店や創業、事業承継などについては支援を厚くし、保証料の軽減を全額行うということで今年度組み替えており、市の制度融資の中で「がんばる中小企業応援資金」の3つを特に掲載している。

【C委員】

制度融資については、予算があるから融資をするということではなく、新しく企業を興したい、事業を拡大したいという方に対して金利面や保証料など優遇できる資金を融資する形で展開しており、資金ニーズに合わせた対応をしている。

コネク22については、一定期間が過ぎたところであるが、金融機関が在籍している商工会議所の理財部会は、創業支援などについて連携している。

また、ワンストップということが重要と認識している。相談しやすい環境、たらいまわしすることなく、まずはワンストップで相談できる体制、コネク22にいろいろな機能を集約しておくことが重要と考える。

【会長】

中小企業支援というのは大きく2つある。一つは資金繰り、経営に困った場合には市としての支援が必要。もう一つは創業やイノベーションというところをしっかりとやっていくこと。これはお金の流れだけではなく、情報や知識のサポート、その拡充なども考える必要がある。

○目標（2）創造的な事業活動について

【D委員】

「ほうふ産品販路開拓支援事業」について、資料によると出展支援が1社のみで少ないような気がするがこんなものなのか。

【事務局】

この出展支援については、展示会等に出展される場合の旅費の支援を行っているが、出展しようとする企業が出てこないのが現状である。

【D委員】

これを市がプッシュすることはないのか。市の担当者から企業に対して、出展したらどうかと言わないのか。企業が行きたいというのを聞いているのか、市から企業に

対して売り込みに行ったらどうかと働きかけをしているのか。

【事務局】

市は出展情報を該当するところへ通知し、意向確認している。

【D委員】

せっかくの事業なので、出店するよう指導し、防府市を全国に向けて広報することになるのだから事業の拡充だけでなく、もっと出展者を増やすような形で拡充したら良いのではないか。

【E委員】

今の話の続きだが、出展の支援というのは具体的にはどういった内容か。

【事務局】

出展にあたって旅費の一部を補助している。

【会長】

こういうことについて、自分は研究している。

これは小規模企業が対象だと思うが、地域商社やまぐちが東京で展示会を行う場合、受ける側の企業が大きい。そうすると、契約するとき生産量を求めてくる、また価格交渉力が違うのでこちらの思う値段で売れないため交渉が成立しない、成立しても利益が出ない。

銀行などと連携して、もっと小さい企業に大都市圏にアプローチできるように、例えば山口県庁が山口市出身の方の飲食店を農産物の加工品などの販路にしていくなどとやらないと、なかなか小規模企業が都会の大手の企業と契約することや利益を上げていくということは難しいし、成り立ち辛いので、そういったところを研究してもらいたい。

【F委員】

「ほうふ産品販路開拓支援事業」は新規の事業となっている。新規ということは、こういう声があって新規の事業として生まれてきたと思うが、それに対して実績が1件というのは、事業の組み立てと現実がこんなに離れているものか。どういう計画の組み立てがあったのか伺う。

【市長】

中小企業の方が東京の方へ個人で出展するのは困難なため、イベントなどの時に出展しようという制度だが、会長からもあったように業者としての一定の水準も求められる。市としては積極的にやりたいという思いもある。

地域を回ると、そういう要望を言われるが具体的にになると、例えば費用の全額を市

が負担するのであれば、という話が出てくる。

この事業は、一人での出展は物見遊山になる可能性があるため認められず、複数での参加の場合、やる気がある場合には一人分の旅費を出すという制度設計のため、ニーズを聞いた時と実際ではギャップが生じている。

また、会長からもあったが、東京では一定の規模が必要という課題もある。

この事業は今年スタートなので、これらのことを踏まえながら、今後見直していかないといけないと考える。

【A委員】

会議所も市内の企業を回っていると、商圈としてこの区域外に出ていかないと収益が上がらないというところもあるが、いいものを持っていても、なかなか出ていけない。相手が大きいと相手の要望と商品に食い違いがある場合も多い。

コネクト22の中でブランディングのセミナーもやる予定だが、そういう中で、こういう事業（ほうふ産品販路開拓支援事業）を活用するよう、我々も周知していかなければいけないが、事業者にも自分から都会に出て勝負したい、という気持ちを持ってほしいと思っている。

【会長】

重要な施策であるが、利用者としてはどこをどう使ったらよいかわからない。また、制度としてはこれから育てていかなければいけない。圏外に出ていくときは経営ノウハウが必要になってくるので、そのことの克服が必要になってくるため、お金だけではなく、もっと知識であったり、経営ノウハウであったりをサポートと一緒にすることがより重要ではないかということではないか。

○目標（5）交流及び連携の推進並びに事業の共同化のための組織整備について

【A委員】

地場産業振興センターの現状をお聞きしたい。

【事務局】

地場産業振興センターは、設立時は山口市、小郡町、阿東町、秋芳町、美東町、防府市の2市6町、現在は合併により山口市、美祢市、防府市の3市が対象地域となっている。

事業としては、中小企業者への助言、相談、支援について各種支援機関の紹介や、委託による事業所への訪問を実施している。

また、地場産フェアを年二回開催している。その他、陶芸手づくり教室などの講座や、1階にて地場産品の展示販売を実施しているが、販売手数料は年々減少している状況。

【A委員】

広域ということだが、現在、各市町の相談は、それぞれの市町が対応している。

今は生産から流通、販売、マーケティングまでの総合的な相談に対応する必要があり、売り手にマーケティングができる人材育成が必要になってくると、あらゆる機能が集約したコネク22などで、相談を受ければ対応できるのではないか。

今後は、山口や美祢は、新山口の方で対応することになると思われるので、防府市ではコネク22などワンストップで相談を受けることが重要ではないか。

また、小規模な事業者は何をどうしたらよいかわからない生産者が多いため、いきなり専門的な地場産業振興センターではなく、「まずは何から」というところを指導できることが必要ではないか。

【G委員】

地場産業振興センターのことだが、今のコネク22と業務がかなり被っているところがあるため、事業内容を見直す必要があると感じている。

コネク22も現在は防府市の拠点としての立ち位置ができているので、金融機関、よろず支援拠点との連携も取れている。地場産業振興センターは同じようなことを行っていると考えられるので内容を精査したほうが良い。

【会長】

来年度に向けてというより長期的に見直しや統合などが必要ではないかという意見であったと思う。

また地場産業全体のことについて言うと、地場産業は小さいビジネスのイメージを持つが、実は、地方が海外に直接輸出できる産業というのは地場産業が多い。地場産業をいかに育てるかということは、直接この防府市が海外からお金を得られる可能性がある。

人口が減っていく中でこういうことができるということは非常に重要なことで、地場産業が発達することは、市民が誇りをもって暮らしていけるということ。

そのことで、若い人が防府で暮らしていこうとか、他の地域からも防府は魅力があるということで人口が増える可能性があるため、より戦略的な形で扱っていくことが重要ではないか。

○目標（6）産業集積の活性化について

【F委員】

「企業立地推進事業」についてだが、現実的に防府市内に大きな企業を誘致する土地はあるのか。

【事務局】

現在、防府市所有の土地は無く、民間の土地を紹介している状況。

【F委員】

その場合、コスト的な部分が高くなるが、それは他の自治体と比べて競争力という面ではどうなのか。

【事務局】

価格面はともかく、防府市が持っているポテンシャルは高いため、そういう部分で売っていくということ。

【F 委員】

ポテンシャルはあると思うが、具体的にどうなのか。

【市長】

大企業の場合は大きな視点で捉え、港、道路、雇用の確保など長期的に考える。

中小企業の場合、例えばマツダの関連企業であれば、マツダに近いということがあり、そうした場合にはどこのコストが安いということがあるかもしれない。

企業によりニーズが異なり、大きい企業の場合は、工水や電力の問題などがある。今の一番の問題は人手不足なので、人をどう確保するかという問題もある。

工場などをすぐに作る場合には、団地が必要で、大きい場合には開発ということもあるかもしれないが、道路や港湾の整備が必要。いずれにしても2、30年前とは状況が変わってきているのではないか。

【F 委員】

6番目の「中心市街地活性化事業」の予算額が半分になっているが理由は。

【事務局】

昨年まで中心市街地の計画を策定するためのデータ分析をコンサルに委託していたが委託業務が終了したため、その予算が減額されたということ。

【会長】

大企業の場合にはインフラを重視している。今後は、港湾をどれだけ準備したか、助成金をどれだけ出したか、いわゆる市町の競争に入ってしまう。最低でも、それはやらないと競争にはならないが、例えば、地域の中小企業、防府の中小企業を使うと他の地域よりも生産性が高くなるというような状況を作っていくこと。

大手企業はできるだけアウトソーシングしていくという施策を取っている。そこに対して防府の中小企業が応えていける地域のネットワークができていくという競争優位を作ることなどが必要になってくる。

長期的なことも考えて、大企業を支える中小企業ネットワーク群というところを強化していくことも必要ではないかと個人的には思っている。

- （7）従業員の雇用環境の整備、雇用の維持及び創出並びに人材の育成について

【H委員】

我々も人材不足で困っている。年配の方で働く意欲がある人で、肉体的には難しい面があっても、こういう仕事ならできるという人について、中小企業の間で共有できないか。

大企業の場合には募集すればすぐに応募があり、新規採用の若い人は当然引く手あまたであろう。今の仕組みで行くと、いったん辞めて訓練学校に入るかハローワークで見つけるかということになっているが、そのまま次に働きたいという要望が中小企業の場合たくさんあるのではないか。それを横並びにしてこれならできるというような仕組みができないか。

【会長】

退職を迎えた防府市内の中小企業に勤めていた人たちの人材バンクのようなものを作り、登録し、企業からは希望する人材を探せるようにできないかということで、これは大変おもしろい意見である。

【市長】

今、市でも検討しているが、例えば、トラックの運転手の方を市のデマンド交通のタクシーの運転手として迎えることはできないかなどを検討しているところである。貴重なご意見をいただいたので検討していきたい。

【会長】

今運輸業でIT化やトラックなどの資産を流動化させる、リースにするなど、様々な金融の技術が発達して経営の仕方も変わってきているが、例えば、都会からそういう技術に詳しい高齢者を連れてきて技術革新を図るといふことのニーズはあるか。

【H委員】

それはある。

【I委員】

最近金融情勢も変わっているため、「勤労者持家促進資金預託金」というのはどうなのか。金融機関でも借り易くなっているので出さないでも良いのでは。

人材は、あきらかに足りないが既にハローワークや人材バンクなども活用している、今後もそういう形でやるしかないのではないか。

【E委員】

2番目の「外国人生活応援事業」についてだが、現在市内で外国人の受け入れを行っている企業がどのくらいあり、実習生等の人数が分かれば教えて欲しい。

参考だが、外国人実習生の受け入れというのは受け入れ団体のほとんどが事業協同組合で行っており、防府市では4組合ある。

【事務局】

公式に出ていないが、市が企業訪問の際に把握したものでは、10数社が受け入れられている。今年の2月1日現在の技能実習生の数が約800人弱となっている。

【D委員】

「人財活躍応援事業」について、先ほどから地域の人材不足という話が出ているが、この事業は人材を育成、開拓しようという事業だと思うが、どの程度効果が上がっているのか。山口しごとセンターへの登録を目指しているということだが、登録者全体に対して、何割ぐらいの人がこの事業を通して登録しているのか。

【事務局】

就労意欲喚起イベントでセミナー等を開くことによって参加者に山口しごとセンター、ハローワークへ登録してもらおうという年間イベントを4回予定している。

現時点では、そのうち1回は実施しており、イベント参加者は63名、山口しごとセンターへの登録が7名となっている。

2回目は、今週、「わいわいHOFUっ子のつどい」というお母さんとお子さんが150組参加されるイベントが開催されるため、そこに参加する予定である。

3回目、4回目はショッピングセンターにコーナーを設置し、適職診断を行い、それをきっかけとして登録者を増やしていく予定である。

去年は、山口しごとセンターが駅前のイオンで実施し、80名近い登録者があったので、同様の登録者数を見込んでいる。

「ほうふしごと応援事業」には高齢者を対象とした事業もあり、今年度、1回開催しており、参加者が24名、登録者が12名の実績となっている。

【D委員】

ショッピングセンターで開催するのは効果的、今年度も開催するということだが、地元から人手不足という意見が出ている中、それに応えられるよう、この事業をもっと活性化、拡充することが必要ではないか。

【会長】

人材不足という観点から関心の高い施策。

ひとつは、防府市にどれだけ人材がいるのかということだが、今の話を聞くとやり方によってまだまだ労働力の確保が可能ではないか。

その他に、外から人材を呼んでくる、もう一つは関係人口の増加。最近副業が認められるということもある。

山口銀行では副業のマッチングビジネスを始められるということも聞いている。

そういうことも積極的に活用して全体のパイを拡げる、市内で働ける人を探していくということが必要ではないか。

そのためには、この「人財活躍応援事業」には効率的なものもあるが、新たな取り組みも考えていただきたい。

【J委員】

「企業の魅力発信事業」について、何をもちて企業の魅力かということだが、防府市の一つの取り組みを企業に浸透させるということも一つの手ではないか。

例えばSDGsを企業にいかにも浸透させていくかということでもまち全体の魅力にもなるのかもしれない。また、自分の企業に誇りを持つことが、まちに誇りを持つことになる。

市の指標として一つ一つの企業の共通意識としていけるものがあれば、全体として盛り上がっていくのではないか。

【K委員】

「外国人生活応援事業」について、マップの作成というのがあるが、自分は飲食業を行っている中で英語のメニューを作っている。

生活に関するマップだけではなく、地域内の遊びに行く場所などを紹介するマップなどがあれば住みよくなるのではないか。

事業者が作成する外国人向けのマップに対する助成金などが含まれていたら、まち全体が外国人の生活者に優しくなれると思うが、そういうものはないのか。

【事務局】

この予算には、マップ作成などに対する補助金はないが、市が作成するマップの中にそういう部分も落とし込むことによって案内できるかもしれないので、そういう情報も仕入れていきたい。

【会長】

私は山口大学勤務だが、世界各国から学生が集まっている。

例えば、中国人の留学生が働きに行く場合、中国人同士のネットワークが発達しており、この会社は非常に働きやすいという情報が、代々先輩から後輩へ伝わってアルバイトが確保できているということがある。もう一つは、山口大学の学食ができたが、そこにイスラム圏の国の人たちの食事をメニューに加えたことによって大変喜ばれている。

ほんの少しのサービスで外国人の地域や組織に対するイメージも変わってくるようなので、基本的なところだが、そういう面を促進するような施策が必要ではないか。

星野リゾートの社長と話したときに、確かに多言語化ということも重要だが、観光地でも基本、英語があれば大丈夫と言われていた。もちろん中国語、韓国語をやっていくことも重要なことであるが、最初は英語があればどうにかなるということであった。

委員の意見にもあったように、英語で案内していくということに取り組んでも良い

のではないかと、そのための予算措置をどのようにしていくのかということではないかと。

【B委員】

7ページのところで、前回の会議でも言ったが、「工場等設置奨励制度」について、次の予算では、大企業と中小企業の内容を分けて予算を考えたほうが良い。

資料を見ると、指定年月の古いものが並んでいて新しいものがない、そのうち8月までで1.1億まで、予算は全部で5.1億なので、これから半年で次があるのかわからないが、指定年月が古いものはある程度見込みがたっていたと思う、それにしても、予算が5億で、これは見込みがあって増やしているのかそういうところがよくわからない。

それと、11ページの9番と12ページの10番について額は大きくないが、これらの事業内容の書き方が重なっている。9番の事業内容について離職者緊急対策がメインであるなら、事業内容の書き方を変えたほうが良い。

市民の目から見た時の外国人に対する要望だが、近くに外国人の住んでいるアパートがある。生活マップや溶け込めるための支援ということでの意見だが、雇い主である事業主が一切不明である。何かトラブルが発生したときに誰に言えばいいのか全くわからない。そういう責任も企業に要望していくことを同時にやっていただきたい。

【F委員】

それぞれの事業は大切だが、この先、どういう防府にするための事業なのか、どういう方向なのか私個人では見えないところがある。どういうまちづくりをしていくのか、頂上が見えない。その辺を含めて今後は見えるようにして欲しい。

【市長】

先ほど、B委員からあったが、「外国人生活応援事業」については、御指摘のことなどが課題としてあるため、そのことを事業の目的としてスタートしたもので、雇用されている企業とも連携をしていきたい。

「工場等設置奨励制度」については、企業立地交渉のところで指定し、操業して1年というところで確定するため、年度間でのバラツキがある。大変な金額になるためしっかりと精査しながら進めていく。

F委員の質問は大変難しい問題である。来年、中小企業振興計画の見直しを行う、併せて防府市の総合計画の見直しを行う。

そして、中小企業振興施策は現場の声を聞くことが一番大切なことである。こういう場で意見を聞くことや、まちを歩きながら意見をお聞きし、大企業のことには大企業を回りながら、まちづくりはどうしたらよいか考えながら、総合計画などの中である程度は示せるとよいと考えている。

民間が進んで、行政がサポートするということがまちづくりをするためには必要。これからは行政だけではできないので、皆様の御意見をお聞きしながら街づくりについてお示しできるようにやっていきたい。

【会長】

それぞれの意見については事務局でとりまとめ、来年度の事業を検討していただきたい。

3 その他

【事務局】

～ 防府市中小企業振興基本計画の変更スケジュールについて ～（資料3）

通常、年3回開催する防府市中小企業振興会議を、令和2年度は防府市中小企業振興基本計画を変更するために4回開催して委員の皆様の御意見を承りたい。

【会長】

私から本日の全体的なことについて所感を述べる。

一つは、内容や予算については概ね了解はいただいたと思うが、お金だけではなく知識や情報、一緒にサポートを行うなどのノウハウが今求められているのではないか。

もう一つは、今までのやり方と違うやり方。ITとかAIが発達し、その法整備が進められ環境が変化してきたことで、もっと広げることができるのではないか。サービスの内容、施策の中で取り扱う内容を増やしていくことも必要になってきている。

副会長などから意見があったが、このことは事務局に負担をかけると思うが、事業を評価するときに、少なくともこれまでの実績と評価があると議論がしやすいため、そういう簡単な指標のようなものを出してもらいたい。

今回8個の目標があった。おそらく市役所で働く方は相当な業務を抱えていると思うため、市役所で働く人の環境についても考えていかないといけないが、今日のこの8個の目標について本当にできるのか。確かに全部できれば素晴らしいことだが、組織や資源には限りがあるので、この中で軽重をつけることや、選択をすることが必要、次年度の計画の中に入れるとより効果のあるものができるのではないか。

【市長】

～ 閉会の挨拶 ～

本日は貴重な御意見を承り感謝する。

これから予算編成、来年の中小企業振興基本計画の見直し、更には総合計画の見直しということになる。会長からも話があったが、施策に軽重をつけてしっかり行うということを防府市総合計画や防府市中小企業振興基本計画に反映したい。

課題は山のようにあるが、この何年間はこの集中するというような思い切ったことができるようにしていきたいと考えている。

今後も委員の皆様の忌憚のない御意見を承りたい。

【事務局】

以上で、令和元年度第2回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午前11時37分